

詳説世界史

世探704 B5変型判(230mm×174mm) 398ページ 予価909円

【編者】

木村 靖二 東京大学名誉教授
岸本 美緒 お茶の水女子大学名誉教授
小松 久男 東京大学名誉教授
橋場 弦 東京大学教授

【著作者】

阿部 幸信 中央大学教授 林 佳世子 東京外国語大学学長
池田 嘉郎 東京大学教授 村上 衛 京都大学教授
勝田 俊輔 東京大学教授 株式会社 山川出版社
島田 竜登 東京大学准教授

【編集協力者】

石井 栄二 東京都立国立高等学校教諭
藤本 和哉 筑波大学附属高等学校教諭

(2025年3月現在)

※教師用指導書は ➡p.132 をご参照下さい。



- 図版(写真) 495点
- 地図 119点
- グラフ・図表 52点(グラフ9+図24+表19)
- 文字資料 50点
- 二次元コード 29点

message



木村靖二

(きむらせいじ)

東京大学名誉教授(ドイツ近現代史)

この新しい世界史では、古代から現在までの歴史過程を、それぞれの地域での文明の成立期、各文明の交流期、さらに欧米文化による世界の一体化期、そして一体化が深化したグローバル化世界の4期に分けています ➡p.104。つまり歴史を、各地域を軸に、それらが時間とともにどのように変容してきたのか、また各地域が相互にどのように交流したり、競合したり、対立したり、合同したり、分離したりしたのかをみていくのです。そのなかで各地域もさまざまな変容し、拡大したり、縮小したり、あるいは消滅したりすることもおこりました。

グローバル化の深化とともに、各地域・国家は同質的な構造の世界に変容していくかのように見えてきました。しかし、グローバル化した世界では、地域や国家の多様性がかえって増大しているのです。たとえば、先進地域の人口は現在停滞か縮小に向かっています。一方、発展途上地域では人口は増えつつあり、両地域の格差や対立が広がりがつつあるのではないかと指摘されています。こうした問題を理解するには、個々の地域や歴史などそれぞれの特有な形成過程から、グローバル化した世界を考える視点が求められます。歴史総合で学んだことを踏まえて、その理解をさらに深める助けとなるよう願っています。



橋場 弦

(はしばゆずる)

東京大学教授(ギリシア古代史)

第Ⅰ部の1・4章と第Ⅱ部の7章では、ヨーロッパに文明が生まれ、周辺諸地域と交流しながら変容し展開していく流れが描かれています。

のち世界の一体化を主導していくヨーロッパ文明ですが、その誕生の起源をたどると、実は西アジアやエジプトの古代文明から色濃く影響を受けていたことがわかります。近年、ポスト=コロニアリズムの影響を受けて西欧中心主義的な歴史観が反省を迫られていますが、古代ギリシア・ローマ文明の見方も例外ではありません。ポリスという都市国家を古代ギリシア人が建設するにあたっては、オリент文明からさまざまなアイデアを取り入れました。ローマ人はその都市国家体制からスタートして、ついには地中海世界を統一しました。ローマ帝国が崩壊したあとに成立した西ヨーロッパ世界は、やがて近代資本主義体制の中核としての地位を獲得していきます。ユーラシア大陸西端の一地域にすぎなかったヨーロッパが、近代世界の成立に大きな役割を果たすようになった背景には、それ以前から積み上げられていたさまざまな歴史的條件が働いていたと言えます。

今回の教科書では、その一連のつながりがわかりやすいように構成を大きくあらため、設問や史料も一新して、近代以前のヨーロッパ世界の成り立ちがより明快に把握できるよう配慮しました。

世界史の枠組みを体系的に学べる 信頼の教科書

1

バランスよく、わかりやすい丁寧な記述

➡p.106-107

- 分野・時代・地域をバランスよく、**背景や因果関係も丁寧に記述**しました。
- 近年の歴史学研究成果を豊富に盛り込み、**日本史も含めた同時代のつながりにも配慮**しました。

2

時代の特徴をつかむ多様な問いかけ

➡p.108-109

- 章・節、小見出しなど随所に「問い」を設けて、学習目的が明確にわかるようにしました。
- 第Ⅰ部～第Ⅲ部の冒頭に「**第〇部を学ぶ前に**」を、終わりには「**まとめ**」を設け、構造的に世界史を理解できるようにしました。

3

探究活動に取り組みやすい 大きな図版・豊富な史資料

➡p.110-111

- 判型を大きくし**(A5判→B5変型判)、図版や図表・文字資料を大幅に増やしました。
- 二次元コードから、図版・史資料をより詳しく**見ることができるようになりました。
- 第Ⅳ部の第19章には、現代の課題を歴史的にみるコラム「**現代世界への視点**」を設けました。



岸本美緒

(きしもとみお)

お茶の水女子大学名誉教授(中国明清史)

世界史教科書の作成においては、一定のバランスと安定性を保ちつつ、歴史研究の進展に即応した新しい内容を取り入れていくことが課題となります。今回、「世界史探究」という新しい科目の教科書として『詳説世界史』を編集するに際しては、気鋭の研究者を多数新たな執筆陣として迎え、近年の歴史研究の成果に基づき、内容の刷新を図っています。

東アジア・東南アジアに関しては、諸地域間の影響・対立関係や文化的融合の状況について現行版以上に留意し、一国史の束にとどまらない歴史のダイナミックな動きを読み取っていただくよう工夫しています。図版や史料も、そのようなポイントを考慮して、いわゆる定番ではない新味のあるものも選ばれていますので、「問い」と合わせて、本文と有機的に結びつけて活用していただければ幸いです ➡p.108。

用語の選択については、今までゴシック体であった語を注に移しているなど、従来との相違にお気づきの点もあるかと思いますが ➡p.106。これらは、単位数削減に伴う用語精選の必要とともに、研究の現状に依拠するという観点から、今後のスタンダードとなることを見据えて、教科書としての安定性も考慮しつつ慎重に検討した結果のものです。これらの新しい特色を生かして授業・学習をおこなっていただくことを願っています。



小松久男

(こまつひさお)

東京大学名誉教授(中央アジア近現代史)

今回の執筆は教科書の構成と内容を大きく見直す機会となりました。全体として最近の研究成果を取り入れるとともに、世界史理解のバランスをとるよう努めました。私が担当した部分での新しさとしては、下記の点を挙げることができます。従来の地域名称「内陸アジア」を「中央ユーラシア」に改め、遊牧民の活動が東アジアや西アジアなどユーラシアの各地に与えた影響や相互関係が理解しやすくなるようにしました ➡p.106。中央ユーラシアを統合したモンゴル帝国については、同時代の東西交流の説明を拡充し、ティムール朝はモンゴル帝国に続けて解説することで両者の関係性がわかるように工夫しました。

西アジア関係ではイスラーム教成立後の記述を一新し、イスラーム圏の広がりや役割をより鮮明とするように努めました。文化面にも目配りしたほか、オスマン帝国については成立から近代に至るまで見通せるように配慮し、現代の中東については重要なテーマとしてパレスチナ問題とイスラーム主義の展開に留意しました。

また、図版については歴史的なイメージを喚起するものを採用しました。たとえば、世界地図「混一疆理歴代国都之図」(教科書147頁)などは是非じっくりと見ていただきたいと思います。

改訂のポイント

歴史総合

現代の歴史総合

わたしたちの歴史

日本史探究

世界史探究

指導書関連

その他の教材

目次と配当時間例

新学習指導要領に対応した**4部構成**です。
世界の歴史の大きな枠組みと展開を部ごとに構成しています。

第Ⅰ部～第Ⅲ部の冒頭に、諸資料を用いて、生徒の関心を高め
課題意識を育む「第〇部を学ぶ前に」→p.108 を設けました。

目次	
世界史へのまなざし① 地球環境からみる人類の歴史 自然環境と人類の進化 4 世界史へのまなざし② 日常生活からみる世界の歴史 砂糖とコーヒーからみる世界の歴史 8 / 余暇からみる現代世界 10 / 歴史のなかの家族 12	
第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成 15 ● 第Ⅰ部を学ぶ前に 16 第1章 文明の成立と古代文明の特質 18 1 文明の誕生 18 2 古代オリエント文明とその周辺 20 3 南アジアの古代文明 28 4 中国の古代文明 30 5 南北アメリカ文明 35 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 37 1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界 37 2 秦・漢帝国 40 3 中国の動乱と変容 44 4 東アジア文化圏の形成 47 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 54 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 54 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 58 3 東南アジア世界の形成と展開 60 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 63 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 63 2 ギリシア人の都市国家 66 3 ローマと地中海支配 75 4 キリスト教の成立と発展 83 第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 85 1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 85 2 ヨーロッパ世界の形成 91 第Ⅰ部まとめ 102	第Ⅱ部 諸地域の交流・再編 103 ● 第Ⅱ部を学ぶ前に 104 第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 106 1 イスラーム教の諸地域への伝播 106 2 西アジアの動向 111 第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 117 1 西ヨーロッパの封建社会とその展開 117 2 東ヨーロッパ世界の展開 122 3 西ヨーロッパ世界の変容 126 4 西ヨーロッパの中世文化 134 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 137 1 アジア諸地域の自立化と宋 137 2 モンゴルの大帝国 144 第9章 大交易・大交流の時代 150 1 アジア交易世界の興隆 150 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容 158 第10章 アジアの諸帝国の繁栄 162 1 オスマン帝国とサファヴィー朝 162 2 ムガル帝国の興隆 166 3 清代の中国と隣接諸地域 169 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 176 1 ルネサンス 176 2 宗教改革 180 3 主権国家体制の成立 184 4 オランダ・イギリス・フランスの台頭 189 5 北欧・東欧の動向 195 6 科学革命と啓蒙思想 199 第Ⅱ部まとめ 202

分野・時代・地域を
バランスよく
構成しています。

各部の終わりには、世界史の枠組みや展開を構造的に
理解するために、「まとめ」→p.109 を設けました。

目次	
第Ⅲ部 諸地域の結合・変容 203 ● 第Ⅲ部を学ぶ前に 204 第12章 産業革命と環大西洋革命 206 1 産業革命 206 2 アメリカ合衆国の独立と発展 209 3 フランス革命とナポレオンの支配 212 4 中南米諸国の独立 217 第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 220 1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 220 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 226 3 アメリカ合衆国の発展 234 4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄 238 第14章 アジア諸地域の動揺 242 1 西アジア地域の変容 242 2 南アジア・東南アジアの植民地化 246 3 東アジアの激動 252 第15章 帝国主義とアジアの民族運動 258 1 第2次産業革命と帝国主義 258 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 265 3 アジア諸国の変革と民族運動 270 第16章 第一次世界大戦と世界の変容 278 1 第一次世界大戦とロシア革命 278 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 284 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 292 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 300 1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 300 2 第二次世界大戦 308 3 新しい国際秩序の形成 314 第Ⅲ部まとめ 322	第Ⅳ部 地球世界の課題 323 第18章 冷戦と第三世界の台頭 324 1 冷戦の展開 324 2 第三世界の台頭とキューバ危機 328 3 冷戦体制の動揺 332 第19章 冷戦の終結と今日の世界 339 1 産業構造の変容 339 2 冷戦の終結 344 3 今日の世界 349 4 現代文明の諸相 358 地球世界の課題の探究 364 世界史年表 366 索引 378 世界の自然・世界の気候区分 表見返し 現代の世界 裏見返し 【二次元コード】 本書の以下の頁に掲載した二次元コードから、インターネットを 使用した学習ができます。二次元コードの使用にあたって使用 料はかかりませんが、通信料がかかります。インターネットを使 用する際には、先生の許可を得たうえで使用してください。ま た、使用にあたっては個人情報の扱いに十分注意してください。 p.21/p.22/p.41/p.61/p.62/p.74/p.87/p.99/p.116/ p.123/p.134/p.140/p.147/p.151/p.155/p.165/p.168/ p.179/p.207/p.213/p.215/p.239/p.245/p.252/p.259/ p.299/p.312/p.314 【本書の使用上の注意】 暦 西暦を使用し、必要により中国暦・ロシア暦などを用い て説明した。 在位・在任・生没 原則として元首は在位・在任年を、ほか の人物については生没年を付記した。 外国語の仮名表記 人名および地名は原語に近づけて表記 するようにしたが、慣用の定着しているものはこれに従った。 史料引用 できるだけ必要な部分にとどめたが、前略・後略 は特別には記さなかった。また、読みやすく書き改めたところ もある。出典は文末に()の形で示した。

さらなる探究活動を想定し、二次元コードから、本文に掲載した**図版の全体図や部分拡大、追加の図版・文字資料**などを参照できるようにしました →p.111。

改訂のポイント

歴史総合

現代の歴史総合

わたしたちの歴史

日本史探究

世界史探究

指導書関連

その他の教材

1. バランスよく、わかりやすい丁寧な記述

歴史学の研究成果を反映

本書では、全体にわたって**近年の歴史学の研究成果を豊富に盛り込みました**。
例えば2章では、「**内陸アジア**」から「**中央ユーラシア**」へ名称を変更し、さらに中央ユーラシア・東アジア・西アジアの相互関係についても理解できる記述としました。また、古代中国の政治や社会についても記述を刷新しています。

2 中央ユーラシアと東アジア世界

匈奴の国家と秦・漢が現れた紀元前3世紀以降、ユーラシアの東側には、遊牧と農耕の2つの世界が並び立った。7世紀、可汗と皇帝を兼ねた唐の君主がこれらを統合した。

2つの世界はそれぞれのような特徴をもつ社会を形成し、またどのような関係にあったのだろうか。

中央ユーラシア——草原とオアシスの世界

中央ユーラシアの人々の動向は、世界の歴史にどのような影響を与えたのだろうか。

中央ユーラシアの風土

中央ユーラシアの風土に適応して、人々はどうのよう生活をおくったのだろうか。

ユーラシア大陸の中央部は、パミールの東西にのびる大山脈が高温多湿のアジアの季節風(モンスーン)をさえぎるために乾燥し、寒暖の差が大きい大陸性気候を特徴とする。ここには東のモンゴル高原から西の黒海北岸にかけて広大な草原が連なり、その南にはいくつもの砂漠が広がっている。そして、砂漠のあいだには高山地帯の雪解け水を水源とする

中央アジアのオアシスが点在する。この広大な空間を中央ユーラシアと呼ぶ。ここでは、きびしい環境に適応した草原の遊牧民や、オアシスの定住民が活躍し、彼らは周辺の諸勢力と様々な関係を結びながら世界史の展開に大きな役割を果たした。

中央ユーラシアの地勢と遊牧諸勢力の移動

1. 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界 37

章・節・小見出しなどに「問い」を新設しました。→p.109

新設した「問い」

ユーラシア大陸中央部の地域名称。その範囲は一定ではないが、パミールの東西に広がる砂漠・オアシス地域と北部の草原地域を中心とする。現在では、カザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタン、キルギス、中国の新疆ウイグル自治区などの地域にあたる。

内陸アジアという名称も長く用いられてきた。

秦・漢の青銅貨幣 秦の半兩銭(左、p.34も参照)と漢の武帝の時代に発行された五銖銭(右)。円形・穿孔の銅銭は、始皇帝の征服活動を経て東方に広まり、漢に受け継がれて東アジアの貨幣の基本形となった。

秦の初期の支配体制を、郡県制と封建制(→p.32)を併用したという意味で、「郡国制」と呼ぶこともある。

秦末の混乱期に独立した国家で、広東・広西・ベトナム北部を中心に、その周辺にまで勢力をおよぼした。

前2世紀に南氏が朝鮮西北部に建てた国家。武帝はこれを征服して楽浪などの郡をおいた。

各地の特産物を国家がほかの地方へ輸送して物価を均一にする政策(均輸)と、貯蔵した産物の価格が上がると売り出し、下がると買い入れて、物価の水準を保つ政策(平準)があった。

漢の死後、皇帝と諸王の対立が深まり、やがて軍事衝突に発展した(呉楚七国の乱)。これに勝利した皇帝は、諸王の統治に干渉するようになった。前2世紀後半に即位した武帝は、匈奴を撃退するとともに、諸王の実権を奪い、南越国や衛氏朝鮮を滅ぼして、漢の支配下に入れた。また、張騫を大月氏に派遣したことをきっかけに、中央アジアの交通路をおさえて、タリム盆地一帯にまで勢力をのぼした。

武帝は、地方長官の推薦で官吏を選任する人事制度(郷举里選)をとり、諸王にも中央から官吏を派遣し、さらに監察官を送って全国を監視した。経済面でも、塩・鉄の専売や物価調整策などによって国内の統合

2. 秦・漢帝国 41

記述の刷新、歴史用語の精選

近年の歴史学の研究を踏まえて、世界史B版から記述を刷新しました。また、註を充実させてその詳細や位置づけをわかりやすくするとともに、用語数も精選しています。

新たな視点で、よりわかりやすく丁寧な記述

近世～近代にかけてのヨーロッパ史の記述も、近年の研究成果や新たな視点を盛り込んで刷新しました。

さらにイギリスは、オランダ・フランスとの競争に勝利して世界各地に交易網を広げた結果、高度に商業化した社会に変質した。

イギリス産業革命と資本主義

イギリスでは、17世紀に華やかな模様のインド産綿織物が輸入され、人気商品となった。これにより主要工業の毛織物業が打撃を受けると、18世紀初めにはインド産綿織物の輸入が禁止された。しかし、綿織物の人気は衰えず、原料の棉花をインドから輸入して国内で綿織物を生産する動きも始まった。また、当時イギリスは広大な海外市場を獲得しており、とくに七年戦争後には、綿織物の輸出をその一環とする三角貿易を大西洋で大規模に展開していた。

こうして国内外で綿織物への需要が高まったことに加え、イギリスでは科学革命を背景とする機械工学の伝統があり、さらに鉄鉱石や石炭などの資源にもめぐまれていた。これらの条件が重なって、18世紀後半のイギリスで種々の技術革新が生まれ、産業革命が始まることになった。

一連の技術革新のなかでもっとも重要なのが、すでに炭坑で用いられていた蒸気機関の製造業への転用である。ここに歴史上はじめて、化石エネルギーを動力源とする経済活動が本格的に始まった。これによって、1つの工場当たりの生産力は急増したが、新しい機械の導入は多額の資金を必要とし、さらに不況による倒産も珍しくなかった。

1840年の紡績工場 当初の機械産業では機械の操作に高度な技術が必要としなかったため、機械を動かす労働者の多くは、低賃金で雇われた女性や子どもであった。

産業革命時代のイギリス

発明家・発明品	発明品	発明年	発明品
ニューコメン	蒸気機関	1712年	動力装置
ダービー	コークス製鉄法	1734年	製鉄
ジョーン・ケイ	飛び針	1733年	織物
ハーグリブス	多锭紡績機	1764年	紡績機
ワット	蒸気機関の改良	1769年	動力装置
アークライト	水力紡績機	1769年	紡績機
クロンプトン	ミュール紡績機	1779年	紡績機
カートライト	力織機	1785年	織物
フルトン	蒸気船	1807年	交通手段
スティーブソン	蒸気機関車	1814年	交通手段

1. 産業革命 207

新視点の導入、わかりやすく丁寧な記述

新しい視点を取り入れて、従来の事項もよりその歴史的な位置づけがわかりやすいようにしました。また、歴史的事象のつながりなど丁寧な記述を心がけ、「歴史総合」との接続についても意識しています。

無政府主義)で、私有財産制の不平等を相上げることができ

を大成したのが、ドイツのマックス・エンゲルスである。共産党宣言(1848年)を公刊して、土地と工場、銀行などを公有化するための社会革命が必要であると説いた。

『資本論』(1867年に第一部)を著して、資本主義における自由な立場で労働してもその報酬を完全には受け取れない(搾取)があり、他方で資本家も利潤を無限に拡大することは、こうした無理のある経済体制はいずれ崩壊すると論じて、大きな影響を与えた。また、両者は19世紀後半に労働運動を指導した。

とに別は、慈善団体やキリスト教の教会は、生活改善や貧民救済に努めることで、彼らの境遇の向上を試みた。

ヨーロッパにおいて、1848年革命の影響を受けなかった国や地域はどこだろうか。

1848年1月の議会演説(抜粋)

議員市民よ、……労働者階級はなにかおこっていることに注目していただきたい。……そこでは人びとが、彼らより上層の者たちは彼らを統治する能力を失い、その資格もなくなっている。くり返し語っているのを聞きにならなかったらどうか。……富の分配は正義に反すると、所有は公正ではない、最貧民の上に支えられている。そしてこうした見解が……大衆の底辺にまで浸透していったとき、……誰かれ早かれ最も恐るべき革命が引き起こされるに違いない、ということを信じにならないだろうか。……われわれは活火山の上にいるのと同じだと思おう。

(『富の分配』(1848年)2月革命の(中)——トクヴィル著)

トクヴィル(1805～1856)は、アメリカ合衆国の民主主義を考察して、自由主義者に影響を与えたフランスの政治哲学者である。ここでいわれている「活火山」とは具体的に何のことだろうか。

貧民層も増えて「大衆貧困」と呼ばれる深刻な社会状況が広がった。こうした背景のもと、ヨーロッパ各地で政府や富裕市民層の責任を問う革命的気運が高まった。

七月王政下のフランスでは、銀行家など一部の富裕層に富が集中し、多額納税者だけに選挙権を認める制限選挙による政治がおこなわれていた。それに反発した中小市民層や一般民衆のあいだには選挙権拡大運動が広がり、政府がこれを力でおさえようとする、1848年2月にパリ

224 第13章 イギリスの優位と欧米列強国家の形成

2. 時代の特色をつかむ多様な問いかけ

「第〇部を学ぶ前に」

歴史学習に対する生徒の関心を高め、課題意識を育むために、第Ⅰ部～第Ⅲ部の冒頭に「第〇部を学ぶ前に」を設けました。諸資料の読み解きを通して、部を貫く視点や概念などを考察し、さらに生徒自身が独自の問いを立てられるように工夫しました。

部を貫く視点や概念の一例として、第Ⅰ部では**身分・階級や王権と宗教**との関わりを、第Ⅱ部では**ヒトやモノの移動および経済との関わり**を、第Ⅲ部では**マスメディア**について取り上げました。

1 第〇部を学ぶ前に

古代文明や諸地域の歴史的特質とは何だろうか？

第Ⅰ部では、各地の古代文明や諸地域の歴史・特徴を個別に学んでいく。一方、それらを別の視点から読み解くと、地域ごとに異なる点や事例をまたいで共通する点も見出すことができる。その視点は、**身分・階級・王権・宗教・文化・思想**など様々な考えられるだろう。ここではその一例として古代の西アジアに注目し、多様な身分・階級が生れた背景やその役割、王権と宗教の関係などについて考えてみよう。



シュメール人による農作業の場面（前10世紀～前17世紀） 古代メソポタミアの農民たちはどのような負担を負っていたのだろうか。

お前が畑に灌漑をする準備をしなければならぬ時には、運河の上手や川のそばを走り回って水を引くために働かなければならない。お前が畑に水を引いた時、その水をあまり高くならないようにせよ。水が引いて畑が出てきた時には、畑の端に水を引く。そこは圃をせよ。牛に畑を耕させよ。都を地味した後に畑の端を定め、そこを何枚も耕す。ミナナの意のままに耕せ。半たい雨で牛の端を耕し、「雨を」きれいにせよ。

（歴史学研究会編『世界史史料Ⅰ』）

ドゥアケティという名のシレ（地名）の男が、ベビという名の皇子に与えた教訓の始まり。その時、彼は、その皇子を王都でもっともすぐれた学校に、貴族の子供たちと一緒に入学させるために、王都に向って船で南へと行くところだった。そして彼はベビに言った。「私は船で付たれる者を見た。お前は、その心を背物に付けるべし。労働者として人が連れ去られるのを見なさい。背物に懸るものはない。それは水上の船だ。クミイト（書記教育の教科書）の紙りを汲みなさい。そこにはこの言葉がある。曰く、「書記は王宮のどんな地位にあって、そこで国を治めることはない。」」（歴史学研究会編『世界史史料Ⅰ』）

お前が畑に灌漑をする準備をしなければならぬ時には、運河の上手や川のそばを走り回って水を引くために働かなければならない。お前が畑に水を引いた時、その水をあまり高くならないようにせよ。水が引いて畑が出てきた時には、畑の端に水を引く。そこは圃をせよ。牛に畑を耕させよ。都を地味した後に畑の端を定め、そこを何枚も耕す。ミナナの意のままに耕せ。半たい雨で牛の端を耕し、「雨を」きれいにせよ。

（歴史学研究会編『世界史史料Ⅰ』）

16 第Ⅰ部を学ぶ前に

前7000年	前3000年	前2650年	前2370年	前2000年	前1900年	前1700年	前1650年	前1550年	前1500年	前1300年
農耕・牧畜の開始	エーゲ文明の出現	エーゲ文明の出現	エーゲ文明の出現	エーゲ文明の出現	エーゲ文明の出現	エーゲ文明の出現	エーゲ文明の出現	エーゲ文明の出現	エーゲ文明の出現	エーゲ文明の出現

古代の西アジア・東地中海地域のおもなできごと

強き王、アッカドの王ナラム＝シンは、四方世界が彼に反乱した時、イシュタル神が彼に示した愛によって、1年で9つの戦いに勝利した。そして彼ら立ち上った王たちを捕らえた。彼が彼の町の基礎を危機から守ったことを見て、彼の町の人々は、エアンナのイシュタル神、ニップルのエンリル神、トウトゥルのダガン神、ケシュのニンフルサグ神、エリドゥのエア神、ウルのシン神、クタのネルガル神に、彼をして彼らの町の神となるように願った。そして彼らは、アッカド市の中に彼のための神殿を建立した。（歴史学研究会編『世界史史料Ⅰ』）

②から、それぞれの町（都市国家）と神、また王と神は、どのような関係であったと考えられるだろうか。

③ アッカド王国・ナラム＝シンに関する碑文（前23世紀）と戦勝記念碑。上はアッカド人の王國で最盛期を築いたナラム＝シン王の事績について述べた碑文。右はナラム＝シンが近隣の民族を征服した際の記念碑（部分）。

④ アブシンベル神殿。紀元前13世紀頃にエジプトの王（ファラオ）ラメセス（ラメセス）2世により造営された、太陽神ラーを祭神とする岩窟神殿。その入口には、青年期から壮年期までのラメセス2世を模した、4体の巨像がおかれている。

⑤ のような巨大な建造物は、どのような人々によって建てられたのだろうか。また、なぜこのような事業が可能であったのだろうか。

Q1 西アジア以外の地域では、どのような身分の人々が統治をおこなったのだろうか。また、統治者と宗教はどのような関係にあるだろうか。

Q2 資料に対する疑問や興味、または関心のある視点にもとづいて、自分自身で第Ⅰ部への問いを立ててみよう。

17

テーマにそった図版・文字資料の読み解きを積み重ねることで、部の学習内容に対する考察を広げられるようにしました。

考察をまとめ、さらに生徒が自分自身で部の学習に対する問いや目標を立てることができるように工夫しています。

充実した「問い」や部の「まとめ」

「問い」の新設

- ・章冒頭に、章内容の概観と、それを理解するためのヒントとして「問い」を設けています。
- ・節冒頭や小見出しにも「問い」を設け、学習の内容や目的を明確化しています。「問い」は本文を読んで解答可能な内容にしました。

19 冷戦の終結と今日の世界

1970年代以降の産業構造の変容を経て、90年代初めまでに冷戦は終結した。今日の世界は多極化する一方。環境問題などでは国際的な協力を模索している。

Q 今日の世界には、どのような課題があるのだろうか。

産業構造の変容

Q オイル・ショックの前夜、世界の社会と経済はどのように変わったのだろうか。

Q 先進国の社会では、経済成長とともにどのような変化が生じたのだろうか。

Q 資本主義の存続を論議したうえで、社会制度の拡充を通じて、労働者や低所得層を含む幅広い層の福利厚生を保障して民主主義の定着をめざす政治理念。

産業構造の変容

Q 先進国の社会では、経済成長とともにどのような変化が生じたのだろうか。

Q 資本主義の存続を論議したうえで、社会制度の拡充を通じて、労働者や低所得層を含む幅広い層の福利厚生を保障して民主主義の定着をめざす政治理念。

産業構造の変容

Q 先進国の社会では、経済成長とともにどのような変化が生じたのだろうか。

Q 資本主義の存続を論議したうえで、社会制度の拡充を通じて、労働者や低所得層を含む幅広い層の福利厚生を保障して民主主義の定着をめざす政治理念。

産業構造の変容

Q 先進国の社会では、経済成長とともにどのような変化が生じたのだろうか。

Q 資本主義の存続を論議したうえで、社会制度の拡充を通じて、労働者や低所得層を含む幅広い層の福利厚生を保障して民主主義の定着をめざす政治理念。

節・小見出しの「問い」の解答例は、『詳説世界史 教師用指導書授業実践編』に掲載しています。

① 産業構造の変容。先進国では量から質への産業構造の転換が始まる。福祉国家的政策が批判され、「小さな政府」をめざす新自由主義的政策が登場した。開発途上国では、低賃金を背景に先進国への工業品輸出による高い経済成長が実現した。

② 産業構造の変容。社会主義のもとでの福祉国家的な政策が進む一方で、公害という社会問題が発生し、自然破壊も進んだ。

振り返り学習の「まとめ」

第Ⅰ部～第Ⅲ部の終わりに「まとめ」を設けました。「まとめの問い」とあわせて、世界史の枠組みやその展開を構造的に理解する一助としています。

改訂のポイント

歴史総合

現代の歴史総合

わたしたちの歴史

日本史探究

世界史探究

指導書関連

その他の教材

3. 探究活動に取り組みやすい大きな図版・豊富な史資料

図版・史資料の充実、コラムの新設

判型を大きくし、図版や史料を豊富に掲載しました（写真・地図約600点、図表・文字資料約100点）。随所に二次元コードを掲載して追加の図版・史料も利用できるようにしています。また、19章には現代的課題に関わるコラム「現代世界への視点」を新設しました。

世界と日本のつながり

歴史的事象の背景や因果関係をわかりやすく説明し、世界と日本のつながりにも配慮しています。

観星台(元代の天文台) 郭守敬は中国各地に設けられた観星台において、西アジアの天文学の技術を取り入れつつ、精密な天体観測をおこなった。そのデータをもとにつくられた授時暦は、日本にも受容された(江戸時代の貞享暦)。

新安沈船 韓国南西部の新安沖からみつけた、元の時代の沈没船。いわゆるジャンク船で、日本の寺社名を記した木簡の荷札とともに、膨大な数の陶磁器や宋の銅銭が発見されている。

銀錠 モンゴル帝国で流通した銀塊は、約2kgが基本単位であった。形状は様々だが、同じ重さのものが世界各地から出土している。2kgの銀錠を「元宝」と呼ぶ習慣は、こののちも中国に残った。

交鈔 この写真のものはクビライ時代の年号が入っている。これは銅分(もと銀錠の1に相当)とされたもの。ただし、交鈔の実値は大きく変動した。

史料で深める探究活動

本文の理解を深めたり、とくに重要な史料を掲載しています。また、読み解きのポイントを「問い」で示しました。

秦・前漢時代のアジア

『塩鉄論』禁耕

そもそも秦・楚・燕・齊では、土地の肥沃さや硬さが異なります。農具の大きさや形状も地域ごとに違い、それぞれ適したものがあるのです。ところが国家が鉄器の製造を一手に握り、規格を統一してしまったので、鉄製農具は使いにくくなり、農民も不便を強いられることになりました。おかげで農民は耕作に疲れ、土地は荒れ放題となって、みな困窮しております。(著者訳)

を進めたが、こうした集権的な政策は、匈奴との戦いなどあいつぐ外征による社会不安や財政難への対応でもあった。しかし、徳や礼を重んじ

デジタルの活用

二次元コードを掲載し、図版の全体図や部分拡大、別部分(「清明上河図」〈教科書140頁〉、サン=ヴィターレ聖堂のモザイク〈教科書123頁〉など)、追加の文字資料などを利用できるようにしました。

遷移画面例



コラム「現代世界への視点」

19章には現代世界の課題を歴史的に扱うコラム「現代世界への視点」を設けて、世界史探究のゴールとなる「地球世界の課題の探究」につなげられるようにしました。

現代世界への視点④ ジェンダーの考え方と両性の平等化への課題

Q ジェンダーとはどのような考え方だろうか。また、両性の平等をめぐる日本や世界にはどのような課題があるのだろうか。

女性は女性らしくなければいけない、あるいは、女性のつとめは家を守ることだといった価値観は、長いあいだ世界中で女性の活躍の機会を制限してきた。20世紀後半に登場したジェンダーという考え方は、このような価値観を切り崩すのに大きな役割を果たした。身体的な性とは別に、社会的な規範としての性があるというのがジェンダーの考え方である。この観点に立つて、女性はどうあるべきかといった規範や、両性の役割分担の実態は、歴史的に決して不変ではなく、時代や社会状況によってかわってきたし、今後もかわりう

ることが明らかにされてきた。それでも男性中心の社会構造はなかなかかわらないし、日本ではとくに遅れがめだつ。両性の役割を固定的に考える発想を、批判的に見つめ直すことが必要であろう。そうすることは、女性ばかりか男性の可能性を広げることにもつながる。実際、「男らしさ」という規範は、男性同士の仲間関係をうちかためる一方で、仲間に軽蔑されないようにあえて暴力的にふるまうといった行動を、往々にして男性に強いてきたのである。

コラムにも、読み解きの一助となる「問い」を設けています。

高校世界史

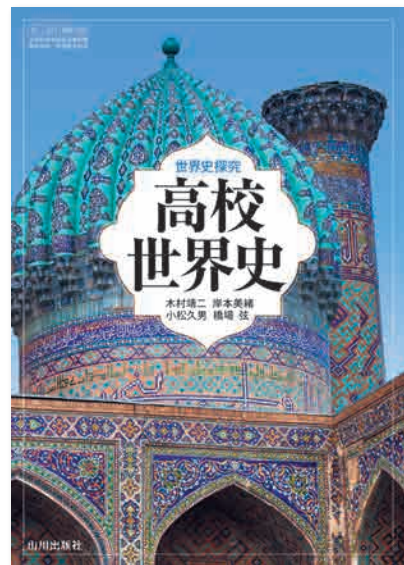
世探705 B5判(257mm×182mm) 302ページ 予価909円

【編者】

木村 靖二 東京大学名誉教授
岸本 美緒 お茶の水女子大学名誉教授
小松 久男 東京大学名誉教授
橋場 弦 東京大学教授

【著作者】

阿部 幸信 中央大学教授
池田 嘉郎 東京大学教授
勝田 俊輔 東京大学教授
島田 竜登 東京大学准教授
林 佳世子 東京外国語大学学長
村上 衛 京都大学教授
小豆畑和之 東京都立西高等学校教諭
仮屋園 巖 東京都立国立高等学校教諭
宮本 英征 玉川大学教授
株式会社 山川出版社
(2025年3月現在)



- 図版(写真) 529点
- 地図 119点
- グラフ・図表 62点(グラフ24+図25+表13)
- 文字資料 33点
- 二次元コード 22点

message



宮本英征

(みやもとひでゆき)
玉川大学教授

「世界史探究」は、世界の歴史の大きな枠組みと展開について理解を深め、地球世界の課題とその展望を歴史的に探究する資質・能力を養うことをねらいとしています。生徒が現代世界の形成とその課題を探究するためには、一人一人の歴史に対する学びの意義や意味、動機が、これまで以上に重要になると思われます。

そのため、『高校世界史』は、生徒が主体となって世界史を学べるように、問いを主体とする構成になっています。各部の最初には「アプローチ」を設け、生徒が問いを表現できるようになっています。「第Ⅰ部へのアプローチ」では、生業、身分、宗教、王権などを観点にして史資料を読み解きながら、生徒が興味や疑問をもとに、問いを表現します。また、各章の冒頭には章を貫く問いを設け、その問いを探究するために節・図版・節末の問いを提示しています➡p.116。第Ⅰ部の章の問いは、生業、身分、階級、王権、宗教、文化・思想などを観点に、諸地域の歴史的特質の形成を探究できるものです。節・図版の問いは、各地域の歴史的特質の理解を深め、節末の問いは、そこで学んだ歴史的特質を総括・概念化したり、今を生きる生徒に関連付けたりすることができます。

この教科書で、生徒が問いを表現したり、問いにもとづいて本文や図版を考察したりすることで、歴史を探究する面白さを感じ、主体的に歴史に向き合うことの意義や意味を見出してくれることを願っています。



小豆畑和之

(あずはたかずゆき)
東京都立西高等学校教諭

学習指導要領には世界史探究の目標として、「資料等を適切に用いて、歴史にかかわる事象について考察、構想したことを効果的に説明する力」を養うことがあげられています。そこで『高校世界史』では、「探究しよう」のページを設け、グラフ・図版・文字資料の読み解きなどのスキル獲得を一つの目標としています。

例えば、第8章の「探究しよう」では、地図と文字資料の組み合わせから、約1000年前の宋の都市である開封を「探究」します➡p.118。この施設は何だろう、歩いて何分だろう、どんな日常生活だったのだろう、などの問いを導入として、生徒同士で意見交換してほしいと思います。想像図を描いてみようとして指示すると、生徒は、建物の大きさや壁の色、行きかう人の服装などについて考察し、自発的に当時の資料を調べます。嗅覚や聴覚についての問いも同様です。歴史の授業では五感を活用することはあまりありませんでしたが、この資料から当時の調理法などに興味を持ってもらえれば、家庭科と協力の教科横断的な授業展開もできます。同様な都市探究には第Ⅱ部のアプローチ「カイロとウィーン」もあるので、発展学習に利用していただきたいと思います。

その他の「探究しよう」では、「絹織物」「綿織物」や「気候の寒冷化」「科学革命」なども取り上げており、ほかの教科との協力や、SDGsとの関連も意識させることができるかと思っています。



仮屋園 巖

(かりやぞのいわお)
東京都立国立高等学校教諭

「世界史探究」における「世界史へのまなざし」は、この科目の導入の性格を有するものであり、自然界や日常生活にみられる諸事象を取り上げ、人類の歴史との関わりを考察し理解することをねらいとしています。

『高校世界史』では、家族の歴史を取り上げています➡p.119。「家族」のあり方は、それぞれの時代を背景に変化してきました。導入として取り上げるのは、「親子の関係」です。私たちが当たり前のことと考えている親子関係も、決して普遍的なものではないことを理解してほしいと思います。そして、現在大きく変わろうとしている家族の問題として、「性別役割分担」を考えてみます。「男性は外で仕事、女性は家庭を守る」という役割分担は、産業革命が進む欧米社会で生まれ、日本では明治以降に広がり、高度経済成長期には、あるべき家族像とされました。

しかし、1960年代末からの学生運動、70年代のフェミニズム運動を機に男女の平等が主張され、「性別役割分担」を前提とする家族のあり方に転機が訪れました。では、家族における男女の平等と「性的役割分担」はどのように変化したのでしょうか。資料③ジェンダーギャップ指数・④イギリスの俳優エマ・ワトソンの国連でのスピーチ・⑤6歳未満の子どもをもつ夫婦の1日あたり家事・育児関連時間の国際比較・⑥育児休業取得率の推移・⑦研究者に占める女性割合の国際比較などを活用し、現在の状況を考察してほしいと思います。

基本をおさえて、資料で深める

1 要点をおさえた、わかりやすい教科書

- 章立ては『詳説世界史』に準拠しています。
- 『詳説世界史』よりも記述量を7～8割程度におさえ、簡潔で読みやすい表現に改めました。

2 「探究」の構造を理解できる、問いを中心とした展開 ➡p.116-117

- 部冒頭の「アプローチ」で、各部の歴史的な特徴や視点を大きく捉えることができます。
- 学習指導要領に沿って、章、節、図版、節末に問いを設定し、問いを主体とした展開のなかで「探究」の学習を進めることができます。

3 資料読み解きのスキルが身につく ➡p.118-119

- 図版529点、地図119点、グラフ・表37点、人物コラム83点を掲載しています。 ➡p.119
- 「探究しよう」を28点掲載。グラフ、図版、文字資料の読み解きなど、様々なスキルが身につきます。
- 資料を読み解く問いから発展的な問いまで、様々な問いを設定しています。
- 二次元コードを22点掲載しています。 ➡p.115

関連教材

教師用指導書「授業実践編」

➡p.132

デジタル

教師用指導書「授業実践編」付属データ集

➡p.133

教師用指導書「研究編」

➡p.133

準拠ノート

高校世界史ノート

B5判 定価935円(税込)

補助教材

山川 詳説世界史図録 第5版

AB判 定価990円(税込)

高校世界史 基本用語問題集

ツインズ・マスター

B5判 定価990円(税込)

デジタル

指導者用デジタル教科書(教材) ➡p.135

改訂のポイント

歴史総合

現代の歴史総合

わたしたちの歴史

日本史探究

世界史探究

指導書関連

その他の教材

目次と配当時間例

『高校世界史』は『詳説世界史』の章立てに準拠しています。

巻頭付録として、**世界史の大きな流れの把握**ができるよう、同時代の地図でそれぞれの時代の特徴を示しています。



目次	
世界の自然(表見返し)	世界史を学ぶみなさんへ
2 世紀の世界	4
8 世紀の世界	6
13 世紀の世界	8
16 世紀の世界	10
19 世紀の世界	12
第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成 25	
第Ⅰ部へのアプローチ 26	
第1章 文明の成立と古代文明の特質 28 1 文明の誕生 28 2 古代オリエント文明とその周辺 30 3 南アジアの古代文明 35 4 中国の古代文明 37 5 南北アメリカ文明 40	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 62 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 62 2 ギリシア世界 64 3 ローマと地中海支配 71 4 キリスト教の成立と発展 77
第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 42 1 中央ユーラシア 42 2 秦・漢帝国 44 3 北方民族の活動と中国の分裂 47 4 東アジア文化圏の形成 50	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 79 1 アラブの大征服とカリフ政権の成立 79 2 ヨーロッパ世界の形成 83
第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 55 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 55 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 58 3 東南アジア世界の形成と展開 60	

第Ⅱ部 諸地域の交流・再編	
第Ⅱ部へのアプローチ 92	
第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 94 1 イスラーム教の諸地域への伝播 94 2 西アジアの動向 97	第9章 大交易・大交流の時代 123 1 アジア交易世界の興隆 123 2 ヨーロッパの海洋進出、アメリカ大陸の変容 128
第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 101 1 西ヨーロッパの封建社会 101 2 東ヨーロッパ世界 104 3 西ヨーロッパ世界の变容 107 4 中世文化 112	第10章 アジアの諸帝国の繁栄 132 1 オスマン帝国とサファヴィー朝 132 2 ムガル帝国の興隆 135 3 清代の中国と隣接諸地域 137
第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 114 1 宋とアジア諸地域の自立化 114 2 モンゴルの大帝国 119	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 141 1 ルネサンス 141 2 宗教改革 143 3 主権国家体制の成立 146 4 オランダ・イギリス・フランスの台頭 150 5 北欧・東欧の動向 154 6 科学革命と啓蒙思想 156
第Ⅲ部 諸地域の結合・変容 159	
第Ⅲ部へのアプローチ 160	
第12章 産業革命と環大西洋革命 162 1 産業革命 162 2 アメリカ合衆国の独立と発展 165 3 フランス革命とナポレオンの支配 168 4 中南米諸国の独立 172	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 201 1 第2次産業革命と帝国主義 201 2 世界再分割と列強の対立 206 3 アジア諸国の変革と民族運動 209
第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 174 1 ウィーン体制と政治・社会の変動 174 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 178 3 アメリカ合衆国の発展 183 4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄 187	第16章 第一次世界大戦と社会の変容 216 1 第一次世界大戦とロシア革命 216 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 220 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 226
第14章 アジア諸地域の動揺 190 1 西アジア地域の変容 190 2 南アジア・東南アジアの植民地化 193 3 東アジアの激動 196	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 232 1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 232 2 第二次世界大戦 237 3 新しい国際秩序の形成 242

第Ⅳ部 地球世界の課題	
第Ⅳ部へのアプローチ 249	
第18章 冷戦と第三世界の台頭 250 1 冷戦の展開 250 2 第三世界の台頭とキューバ危機 254 3 冷戦体制の動揺 257	第19章 冷戦の終結と今日の世界 262 1 産業構造の変容 262 2 冷戦の終結 265 3 今日の世界 270 4 現代文明の諸相 277
地球世界の課題の探究 279 世界史年表 280 索引 288	
現代の世界(表見返し)	
探究しよう	
●ハンムラビ法典は何を定めたのだろうか 31 ●殷墟はどのような墓なのだろうか 38 ●唐の女性はどうな生活をしていたのだろうか 54 ●ヒンドゥー教が人々に信仰された理由を考よう 59 ●アレクサンドロス大王はどのような人物だったのだろうか 68 ●ローマの人々は「コンスタンティヌス帝の凱旋門」を通じて何を感じたのだろうか 74 ●カルル大帝が象を手に入れたのはなぜだろうか 87 ●イスラーム文化の多様性をモスクから考えてみよう 97 ●西ヨーロッパ各国で、国王の権威はどのように変化したのだろうか 108 ●宋代の開封はどのような都だったのだろうか 117 ●中国製品は、なぜ世界で人気だったのだろうか 126 ●アステカ王国をスペイン人が征服できた原因は何だったのだろうか 131 ●オスマン帝国はなぜ繁栄を謳歌できたのだろうか 134 ●満はどのように多くの異民族を統治したのだろうか 138 ●17世紀のヨーロッパは、どのような時代を迎えていたのだろうか 149 ●科学革命は、ヨーロッパの人々にどのような影響を与えたのだろうか 157	●産業革命は、人々の暮らしをどのようにかえたのだろうか 164 ●自由貿易には、どのような期待が込められていたのだろうか 176 ●ヨーロッパ諸国・アメリカ合衆国の工業化はどのように進んだのだろうか 186 ●19世紀前半、オスマン帝国はどのような改革をおこなったのだろうか 192 ●太平天国とはどのような勢力だったのだろうか 199 ●19世紀末、社会主義にどのような変化が生じたのだろうか 204 ●「中国」という国名にはどのような意味があるのだろうか 210 ●魯迅はどのような覚悟をもって「狂人日記」を書いたのだろうか 226 ●ニュルンベルク国際軍事裁判では何が裁かれたのだろうか 245 ●西側諸国はどのようにして経済の復興と成長を実現したのだろうか 252 ●ベトナム戦争は、日本と大韓民国にどのような影響をおよぼしたのだろうか 260 ●中東の情勢に、アメリカはどのように関わっていたのだろうか 269
【本書の使用上の注意】 在位・在任・生没……原則として元号は在位・在任年を、他の人物については生没年を付記した。 外国語の仮名表記……人名および地名は原則に近づけて表記するようにしたが、慣用の定まっているものはこれに従った。 資料引用……できるだけ必要部分にとどめたが、前略・後略は特別に記さなかった。通覧・省略・要約の改変などをおこなった。出典は文末に〔 〕の形で示した。 地名表記……地名は、2つのように表記する場合がある。(日本・日・中国・中・韓国・韓、アメリカ・米、ロシア・露、イギリス・英、フランス・仏、ドイツ・独、オーストリア・奥、イタリア・伊、オランダ・蘭、ソビエト社会主義共和国連邦・ソ)	

各部冒頭の「アプローチ」で、各部の学習の目的を明確化しています。→p.116-117

各章に、資料読み解きのスキルや考察力が身につく「探究しよう」を掲載しました。→p.118-119

探究活動をより深めるために、二次元コードから、本文に掲載した図版の全体図や部分拡大、追加の図版・文字資料などを参照できるようにしました。

改訂のポイント

歴史総合

現代の歴史総合

わたしたちの歴史

日本史探究

世界史探究

指導書関連

その他の教材

1. 要点をおさえた、わかりやすい教科書

2. 「探究」の構造を理解できる、問いを中心とした展開

第 I 部

諸地域の歴史的特質の形成

第 I 部では、オリエント文明などの古代文明の誕生から東アジアと中央ユーラシアをはじめとする諸地域ごとの歴史の様相や展開について取り扱う。

その際、生業、身分、階級、王権、宗教、文化・思想などに着目して考察する。

たとえば王権に着目すると、古代エジプトの王は神権政治をおこない、宗教的な儀式や祭事を取りおこなった。中国の王は戦いを繰り返しながら、集権的な統治の仕組みを整えた。ローマ皇帝は市民たちの支持を獲得する政策を積極的におこない、広大な領域の長期的な支配を可能にした。アッパース朝の君主は、民族の別なくイスラム教徒の平等を保障し、商業活動を重視することで、国家の繁栄をもたらした。

前7000頃 農耕・牧畜の開始

前6000頃 黄河・長江流域で農耕開始

前3000頃 エジプトに統一国家成立

前2700頃 メソポタミアに都市国家成立

前2600頃 インダス文明の成立

前1000頃 マヤ文明の成立

前8世紀頃 キリシヤでポリス成立

前317頃 マウリヤ朝成立

前334 アレクサンドロス大王の東方遠征開始

前221 秦の中国統一

前202 漢(前漢)建国

前27 アウグストゥス、元首政(帝政)開始

395 ローマ帝国の東西分裂

618 唐建国

622 ムハンマドのヒジュラ

750 アッパース朝成立

800 カール大帝戴冠

960



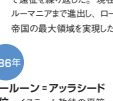
1333 年

ツタンカーメン王即位
古代エジプトの少年王。宗教改革がおこなわれ、旧神(アメン)に代って「王家の神」であるアメンホテプ3世が主神として崇拝されるようになった。



98年

トラスカス帝即位
ローマ帝国の五賢帝の1人。みずから兵を率いて遠征を繰り返した。現在のルーマニアまで進出し、ローマ帝国の最大領域を実現した。



786年

ハールン・アッラシード即位
イスラム教徒の平等を確立したアッパース朝最盛期のカリフ。バグダードの繁栄をもたらした。

第 I 部は身分・王権について取り上げています。

問いを中心とした展開 2

節冒頭に「問い」を設け、その節の学習目的を明確化しています。

図版に番号を付け、関連する本文にも番号を付けました。

問いを中心とした展開 4

節末の「問い」は、その節のまとめや、さらに生徒に考えさせる発展的な内容にしています。

〈そのほかの問いの例〉

3 あなたは、人々を支配するものとも思えたローマ帝国の仕組みは何であったと思うか。

4 隋・唐の繁栄は、どのような人々によって支えられていたのだろうか。あなたがもっとも重要だと考える人々の働きについて、説明してみよう。

各部の部扉は、その部の概観と学習の視点を示し、「部へのアプローチ」と関連させた年表や図版を取り上げています。

古代の諸地域において活動した人々の特色をあげてみよう

資料は紀元前2600年頃のシュメールの古代都市ウル(現在のイラクにある)の遺跡から出土した模長の箱である。「スタンダード(Standard、旗章、軍旗)」と呼ばれているが、その実際の用途は明らかになっていない。スタンダードには、様々な人物のモザイクがほどこされている。ここに描かれた人々の特色から、古代の社会や暮らしについて考えてみよう。

第 I 部へのアプローチ

戦争の場面

右の場面は下段から中段、上段へと時間の流れを追っていくように構成されている。下段は四頭立ての四輪戦車が描かれている。戦車を牽いている動物は馬ではなく、半ロバ(オナガー)である可能性が高い。左端の半ロバは並足だが、右へ行くほど前足が上になっていることから、1台の戦車がしだいに速度を増していく様子とも考えられている。中段には兵士たちが描かれている。左側の兵士は盾をかぶりマントを身につけているが、右側の兵士は盾を身なりはどうであろうか。中いているのだろうか。上段の面で、右側からやってくる人物

平和の場面

右の場面は「戦争の場面」に勝利したあとの「祝賀」の場面や「宴會の場面」といわれる。入れた袋などが運ばれている。中段にかに魚なども描かれている。右端の2人で手を組む喜ぶ様子や行列を導くような人物が描かれているのだから、わたくし描かれ立派な腰巻を身につけていて6人の男性が手をし

10 青銅石器

砒石を使って表面を磨いた石器。研磨の技術は新石器時代の農耕開始とともに発達し、石斧・石臼などが製作・使用された。

28 第 I 部 文明の成立と古代文明の特質

農耕をおこなう男女

社牛に牽かれて土地を耕す男性と、その後について種をまく女性。前1200年頃のエジプトの壁画。

第 1 章

文明の成立と古代文明の特質

世界各地で、自然環境にもとづいて多様な古代文明が成立し、そのもとでは王などの権力者を中心とする社会や文化も形成された。古代文明において、王は人々にとってどのような存在であったのだろうか。

1 文明の誕生

各地で始まった農耕と牧畜は、人々の暮らしをどのようにかえたのだろうか。

農耕と牧畜のはじまり

約1万年前に氷期が終ると地球は温暖化し、自然環境が大きく変化したため、新人は地域ごとの多様な環境に適応していった。そのなかでもっとも重要だったできごとは、約9000年前の西アジアで、麦の栽培とヤギ・羊・牛などの飼育が始まったことであった。これが農耕・牧畜の開始である。これにより人類は積極的に自然環境を改変する能力を身につけ、食料を生産する生活を営みはじめた。人類史は、狩猟・採集を中心とした獲得経済から、農耕・牧畜による生産経済に移るという重大な変革をとげたのである。その結果、人口は飛躍的に増え、文明成立の基礎が築かれた。

農耕・牧畜が始まると、人類は集落に住み、織物や土器をつくり、また石斧・石臼などの磨製石器を用いた。新石器時代の始まりである。このような初期農耕民の新石器文化は、アジア・ヨーロッパ・アフリカの各大陸に広がった。

『詳説世界史』の章立てに準拠し、簡潔で読みやすい表現に改めました。

1 文明の誕生

29

おもな古代文明とその遺跡



生徒自身で問いを表現する「アプローチ」

第 I 部～第 III 部の冒頭に、各部の学習の目的を明確化する「第○部へのアプローチ」を設けました。

各部を貫く視点の一例として、第 I 部では王権や身分・階級、第 II 部では都市の発達や交易の拡大、第 III 部では交通の発達や人々の国際的な移動について取り上げました。

著者messageもご覧ください。→p.112

問いを中心とした展開 1

章の冒頭に、章全体の学習内容をまとめた概観と、それを理解するためのヒントとして「問い」を設けています。

16 彩文土器

表面に彩色文様をつけた土器を彩文土器という。貯蔵やビール・ワインなどの酒類として用いられたが、模様は左のような幾何学文から徐々に右のように動物も描かれるようになっていった。

9 なぜ幾何学文だけでなく、動物も描かれるようになったのだろうか。考えてみよう。

問いを中心とした展開 3

本文の理解を深めるために、図版などの資料にも「問い」を付けています。

16 紀元前1300年頃には「世界の一体化」(p.130)の以前にも、世界各地では言語や宗教を共通の基盤として、独自の特色をもつ文化的なまとまりが形成されていた。本書では、こうしたまとまりを「東アジア世界」「地中海世界」などの表現を用いて示している。

1 文明の誕生は人々の関係をどのようにかえたのだろうか。



- 図版(写真) 487点
- 地図 141点
- グラフ・図表 26点(グラフ8+図10+表8)
- 文字資料 20点
- 2次元コード 30点

新世界史

世探706 B5変型判(230mm×174mm) 410ページ 予価909円

【著者】

- | | |
|-------|-------------------|
| 羽田 正 | 東京大学名誉教授 |
| 岸本 美緒 | お茶の水女子大学名誉教授 |
| 久保 文明 | 東京大学名誉教授・防衛大学校長 |
| 南川 高志 | 京都大学名誉教授・佛教大学特任教授 |
| 小田中直樹 | 東北大学教授 |
| 勝田 俊輔 | 東京大学教授 |
| 千葉 敏之 | 東京外国語大学教授 |
| 丹羽 敬 | 元愛知県立明和高等学校教諭 |
| 小川 正樹 | 函館ラ・サール高等学校教頭 |
| 加藤 修治 | 武蔵高等学校教諭 |
| 岸本 次司 | 元鳥取県立鳥取西高等学校教諭 |
| 岡本 聡 | 白陵高等学校教諭 |

株式会社 山川出版社
(2025年3月現在)

考える歴史の時代に向けて 新しく生まれ変わった『新世界史』

1 現代世界を知るための歴史的視座を養う教科書 →p.124-125

- **歴史の流れ**がわかりやすい記述、出来事の**歴史的背景**が理解できるように意識した叙述に努めました。
- 世界史を学ぶうえで**キーとなる概念**や、**現代の諸問題の背景**となる事項について、70を超える「コラム」を設けて、深掘りし、難関大入試の論述対策にも使えるくわしい解説をしています。

2 「考える」「理解する」「追究する」教科書 →p.126-127

- 400近くの問いを用意しました。各章の冒頭にはその**章の重要事項に関わる問い**を、章末には**まとめとなる問い**を置き、歴史の大きな流れを構造的に意識できるよう工夫しています。
- 本文中にも数多くの問いを設け、生徒が自身で調べ、考え、発見することを通して、**歴史的な考え方や課題の追究の仕方**を学べるよう留意しました。

3 図版・地図・史資料を読み解く力がつく教科書 →p.128-129

- **「資料から考える」**のコーナーをもうけました。写真や地図、図表で読み解く技能が身につくような発問も付しています。
- 文字資料も20ほど用意し、それぞれに問いを付し、**読み解く視点**を示しました。

関連教材



岸本美緒
(きしもとみお)

お茶の水大学名誉教授

授業準備／テスト／評価に	授業／予習・復習に
教師用指導書「授業実践編」 (付属データ集付) 教師用指導書「研究編」→p.133	準拠教材 新世界史チェック&チャレンジ B5判 定価1,320円(税込)

「何のために世界史を学ぶのか」という問いにはさまざまな答えがあるでしょうが、正面から答えるならば、「私たちが生きているこの世界の成り立ちを理解し、広い視野から物事を判断できるようになるため」ということができるでしょう。本書は、次の時代を担うべき高校生の皆さんの世界史学習の意欲にまっすぐに応え、細かい知識よりも骨太な世界史の流れを、そして今日につながる諸問題の歴史的背景を理解していただくために作成された世界史の教科書です。

本書は、2014年に新しく刊行された『新世界史』の特色を受け継ぎつつ、このたびの「世界史探究」の課題に対応することを目指しています。本書の内容はかなり詳しいと感じられるかもしれませんが、その目的は、多数の人名や事項名の暗記を求めることではなく、さまざまな事象の意味やその間の脈絡をできる限りわかりやすく説明し、理解してもらうことにあります。本書を使用する皆さんが、大事だと思う点を自らの頭で確認し、印をつけたり線をひいたりしながら使っていただければ幸いです。

全体の構成は、世界各地の動きの共時性を念頭に置いて、大きく五部に分けてあります →p.122。各部の冒頭では、世界全体を見渡した問題の提示と解説・設問をおこない、各部の重要問題を、諸地域相互の関連と比較のもとに整理して把握できるように工夫しました。

そのほか、本書の大きな特色は、世界史を学ぶ上でポイントとなる重要な事項や概念についてのより深い理解をめざし、コラムを設けてかなり詳しい説明をおこなっている点です →p.125。これらの事項は、現代の世界のあり方にも深くかわる問題を含んでいます。少し難しいと思われる内容でも、地理や日本史、政治・経済など、他の科目とも関連させつつ学習していただくことによって、日常接するニュースの背景や、現在当然だと思われている事象の成り立ちが歴史的な奥行きをもって把握でき、立体的な世界像の形成に寄与し得るものと期待しています。

以上、「考える」「理解する」世界史教科書という点に重点をおいた本書の意図をご了解いただき、その特色を活用して授業・学習をおこなっていただくことを願っています。

message



羽田 正
(はねだまさし)

東京大学名誉教授

新しい学習指導要領では必修の「歴史総合」と世界史科目の「世界史探究」が設置されました。歴史学習の導入としての新しい科目「歴史総合」にはいくつかの目標があります。なかでも、1. 現代の成り立ちを理解するために過去に問いかけるといふ歴史的な見方や考え方の基本を身に付けること、2. 近現代世界の構造とそこでの日本の位置について学ぶことの2点は特に重要です。これらを学んだ高校生がさらなる「世界史探究」のために手に取るのがこの教科書です。

私は、この教科書がこのような高校生の期待に十分に応えることができるものに仕上がっていると確信しています。その理由をご説明しましょう。

1つは、この教科書がグローバル化をみすえた現代にふさわしい最新の世界史の見方を提示しているからです。執筆者は、専門の時代や地域を越えて学界の最先端の研究状況を互いに確認し合い、「現代における世界史」という観点から今何を教科書に盛り込むべきかについて徹底的に意見を交換しました。そして、複数の執筆者がバラバラにその知見を記すのではなく、相互の叙述を関連させ、全体として世界の過去の動きが総合的に理解できるように工夫しました →p.124。また、世界各地の過去を地域ごとに時間の流れに沿って縦に叙述するとともに、同時期における世界各地の動き、つまり横の関係性や共時性を十分に意識した記述を心がけました。この教科書の本文を通読すれば、世界全体の過去があたかも経糸と緯糸を編み合わせた1枚の織物のようにくっきりと浮かび上がってくるでしょう。

もう1つは、教科書の各所にちりばめられた発問によって大きな学習効果が得られるからです →p.127。これらの問いはすべて「歴史総合」で身に付けた歴史的な見方や考え方をさらに高度化するために作成されています。生徒たちは、解答を準備する過程で、各時代や地域の過去についてさらに深い知識を得るとともに、現代世界を理解するために必要なヒントを手に入れることができるでしょう。各部や章の冒頭と末尾に置かれた問いは、その時代の世界全体の構造や地域社会の特徴、さらには歴史の流れを把握することに大いに役立つはずです。最新の世界史の見方を取り入れたこの教科書で学んだ生徒たちが、獲得した歴史の力を使って現代世界で活躍してくれることを期待しています。

改訂のポイント

歴史総合

現代の歴史総合

わたしたちの歴史

日本史探究

世界史探究

指導書関連

その他の教材

目次と配当時間例

月／時間
配当時間例

第Ⅰ部は地球と人類の関係史を考察し、また日常と歴史を結びつけて考察することを通じて、みずからの立ち位置を確認させ、歴史の学習を始める導入にあたります。

全体を5つの部に分け、立体的な世界史像を提供します。

Ⅰ部 世界史へのまなざし

- 第1章 人類の歴史と私たち 8
- 1 地球環境からみる人類の歴史 9
 - 2 日常生活からみる世界の歴史 13

第Ⅱ部は古代文明が誕生してから、世界各地に国家や帝国が生まれる時代を扱います。

Ⅱ部 諸地域の歴史的特質の形成

- 第2章 古代文明の特質 18
- 1 文明の誕生 20
 - 2 古代オリエント 22
 - 3 古代の南アジア・東南アジア・オセアニア 26
 - 4 古代の東アジア 30
 - 5 アフリカと南北アメリカ 34

2章では、世界各地の古代文明が形成される頃までの歴史を1つの章で扱います。アフリカや南北アメリカについても紹介しています。

3～6章では、およそ10世紀あたりまでの諸地域の歴史的特質を紹介しします。

第Ⅲ部は地域世界が経済的、文化的に結びつきを強めていく10～18世紀あたりを扱います。

Ⅲ部 諸地域の交流・再編

- 第7章 結びつくユーラシアの諸地域 106
- 1 イスラーム教とムスリム政権の広がり 107
 - 2 宋と周辺諸国 113
 - 3 モンゴル帝国 120
- 第8章 キリスト教ヨーロッパの成熟と交流 125
- 1 教皇権の確立と十字軍 126
 - 2 ヨーロッパの膨張と成熟 133
 - 3 ヨーロッパの危機と再生 142
- 第9章 交易の進展と東アジア・東南アジア 151
- 1 東西交流の動向 152
 - 2 明代の朝貢世界 156
 - 3 大交易時代の東アジア・東南アジア 160

7・8章がいわゆる「中世」、9章が「大航海時代」を前に繁栄するアジアです。

イスラームは、その誕生と広がりが別の部となりましたが、第Ⅱ部の最後と第Ⅲ部の最初に扱っているため、連続的に教えることができます。

- 第10章 アジア諸地域の再編 165
- 1 オスマン朝 166
 - 2 サファヴィー朝とムガル朝 170
 - 3 清朝支配の拡大 175
 - 4 清朝の近隣諸地域 180
- 第11章 ヨーロッパの成長と世界の一体化 183
- 1 ヨーロッパ人の海洋進出 184
 - 2 世界の一体化とその進展 188
 - 3 近世の始まり 192
 - 4 宗教改革 197
 - 5 主権国家体制の成立 201
 - 6 オランダの覇権から英・仏の抗争へ 206
 - 7 北・東ヨーロッパの動向 212
 - 8 近世ヨーロッパの思想と社会 216

10・11章がいわゆる「近世」を扱います。

第Ⅳ部は欧米諸国が新しい政治・経済・社会の仕組みを構築し他地域に進出する様子を描き、この攻勢に対して対応や抵抗を試みるアジア・アフリカ各地の状況が語られます。世界各地の動きが密接に連動している点にも重点が置かれています。

Ⅳ部 諸地域の結合・変容

- 第12章 国民国家と近代民主主義社会の形成 222
- 1 商業社会と産業革命 223
 - 2 アメリカ革命 226
 - 3 フランス革命とナポレオン 230
 - 4 反動と改革 236
 - 5 1848年の諸革命 241
- 第13章 新国家の建設と世界市場の形成 245
- 1 アメリカ合衆国の発展 246
 - 2 ラテンアメリカとカナダ・オーストラリア・ニュージーランド 251
 - 3 イギリスとフランスの繁栄 255
 - 4 クリミア戦争とヨーロッパの再編 258
- 第14章 アジア諸地域の動揺 265
- 1 西アジアの動揺 266
 - 2 南アジア・東南アジアの動揺 271
 - 3 東アジアの動揺 276
- 第15章 帝国主義と世界 283
- 1 現代社会の特質 284
 - 2 帝国主義と列強 286
 - 3 アジアの民族運動 293
- 第16章 第一次世界大戦 303
- 1 第一次世界大戦とロシア革命 304
 - 2 ヴェルサイユ体制と欧米諸国 310
 - 3 アジアの動向 316
- 第17章 第二次世界大戦と諸地域の変容 325
- 1 世界恐慌とファシズム 326
 - 2 第二次世界大戦 336
 - 3 戦後の世界と冷戦 341
 - 4 アジアにおける冷戦 345
 - 5 冷戦の展開 351

第Ⅴ部は20世紀後半から今日に至る世界の動きを年代ごとに描いています。

Ⅴ部 地球世界の課題

- 第18章 第三世界の形成と世界経済の動揺 358
- 1 第三世界自立の模索 359
 - 2 世界経済の動揺と第三世界の動向 364
- 第19章 今日の世界 369
- 1 紛争解決への取り組みと課題 370
 - 2 経済のグローバル化と格差の是正 377
 - 3 科学技術の高度化と知識基盤社会 387

「近代」の流れは今までと大きく変わりませんが、社会の変革の背景や原因、結果や影響、それぞれの関連性を重視して記述し、発問を設けています。

18・19章は現代世界の課題に直結する歴史です。国際紛争・経済格差・科学技術の進展・文化の変容など、テーマ別に探究できる記述となっています。

課題学習 地球世界の課題の探究 392

索引 394

表見返し 世界の自然・世界の気候区分
裏見返し 現代の世界

コラム

- | | | |
|------------------------|---------------------------|-------------------------------|
| 民族集団「漢族」の形成 33 | 琉球とマラッカ 158 | 三角貿易の背景 277 |
| 華夷思想 39 | 北満南倭 161 | 帝国主義の時代 292 |
| 儒学と皇帝政治 42 | デグシメとイエニチェリ 168 | アジアの民族運動と日本 302 |
| 司馬遷と「史記」 43 | イスファハーンは世界の半分 171 | 第一次世界大戦の歴史の意味 309 |
| 遊牧国家の特質 46 | ヨーロッパからみた中国 179 | 国際平和の思想と国際連盟 309 |
| 朝貢体制 51 | 近世日本の対外関係 181 | ロシア革命とソ連の体制問題 315 |
| 長安の都 55 | 生物交換と「伝説文化」 188 | バルスチナ問題の起源 317 |
| 仏教の展開 57 | 近世ヨーロッパ国家と王位継承 194 | 第一次世界大戦後のアジアの民族運動 320 |
| インド洋海域世界 59 | 近世ヨーロッパと戦争 205 | 日本の植民地統治 324 |
| ヒンドゥー教 60 | 啓蒙の諸相 217 | ヒトラーとナチ党 329 |
| 軍事大国スバルタ 70 | エネルギー革命 225 | 歴史の教訓 335 |
| ヘレニズム 73 | アメリカ合衆国建国の特徴 229 | 日米開戦 338 |
| ローマ市民権と「ローマ人」 81 | 複合革命 232 | 大戦中の戦局と外交 340 |
| ローマ帝国社会の変容 85 | 大西洋革命 233 | 冷戦 343 |
| ローマ教皇 91 | 国民国家とナショナリズム 239 | 日本の敗北と占領 347 |
| イスラーム教 97 | 経済学の時代 240 | ハンガリーの悲劇 355 |
| スンナ派とシーア派 101 | 選挙制度 244 | 「ニコソニョショック」とニコソニョ外交 365 |
| イスラーム教と男女平等 112 | 白人入植による新社会 249 | 植民地 371 |
| 科挙 119 | アメリカ合衆国の特質 250 | 黒人大統領の登場 376 |
| 十字軍 130 | 移民の流れ 254 | 2つの和解の試み 379 |
| 荘園制と村落 132 | 植民地主義 257 | 人権と人権外交 379 |
| 俗語とラテン語 135 | ロシア「大改革」 259 | イランをめぐる国際情勢 381 |
| ユダヤ人 141 | サン・シモン主義 264 | 中国と南シナ海・東シナ海 386 |
| ルネサンス 150 | アフガニスタンとイスラーム主義 270 | |
| ソグド人 155 | インド社会とイギリスの支配 273 | |

70を超える、歴史を深掘りするコラムを用意しています！

改訂のポイント

歴史総合

現代の歴史総合

わたしたちの歴史

日本史探究

世界史探究

指導書関連

その他の教材

1. 現代世界を知るための歴史的視座を養う教科書

歴史の背景や影響に踏み込んだ叙述が「新しい世界史」の視点を育む

叙述を重視

たんに固有名詞を連ねて出来事を羅列するのではなく、
①出来事の歴史的背景や影響が理解できる
②現代世界がどのように成り立ってきたのかを考察させるといったことを意識して叙述されています。まさに「世界史探究」にふさわしい内容です。

歴史学の議論に踏み込んだ記述もありますが、丁寧に叙述されていますから、高校生でも十分に理解できます。



ヴェルサイユ条約の調印 かつてヴェルサイユ宮殿「鏡の間」が会場に選ばれた。前列左から5人目がアメリカのウィルソン大統領、その右がフランスのクレマンソー首相、イギリスのロイド＝ジョージ首相。

ヴェルサイユ体制の成立

1919年1月、連合国はパリ講和会議を開催し、賠償や戦後の秩序について交渉したが、この会議で合意されたヴェルサイユ条約で定められた原則にもとづいて構築されたヨーロッパの秩序をヴェルサイユ体制という。ここではウィルソン大統領の十四カ条提案が強い影響力を発揮し、これまでヨーロッパの国際関係にはなかった画期的な原則が、この会議で盛り込まれた。

その最たるものは、集団安全保障の思想を制度化した国際連盟の設立である。不十分な点が多いとはいえ、ある加盟国に対する攻撃をすべての加盟国に対する攻撃とみなし、攻撃された国を防衛する義務を負わせるという仕組みは、国際社会の歴史ではじめての試みであった。民族自決の原則が国際社会で明確に支持されたのも、はじめてであった。この結果、オーストリア＝

産業革命の影響は、さらに生活様式・政治制度・社会構造などに波及した。力をつけた産業資本家は、才能・勤勉・財産・理性などを尊び、これらの原理にもとづく政治・社会改革を要求した。また、工場は広大な土地を必要とするため農村部に立地することが多かったが、これらの地域では、工場の周囲に労働者が集住することによって都市化が進んだ。こうして出現した都市（工業都市）や初期の工場内部では衛生環境が悪く、伝染病など様々な社会問題が生じた。

もっとも、産業革命の進行度は産業部門ごとに異なっていた。また、家内制手工業生産を担う手工業者・職人は、産業革命の進行に抵抗するため職人組合に結集し、機械の破壊や暴動に訴えた。

賠償金は戦前のドイツ通貨単位

2 明代の朝貢世界

14世紀の東アジア

14世紀に入ると北半球全体で異常気象が続き、ヨーロッパでの凶作や疫病とほぼ時を同じくして、東アジアでも自然災害による飢饉がおり、元朝の中国支配はゆらぎはじめた。

中国では、白蓮教徒による紅巾の乱をきっかけに、各地で反乱がおこった。貧しい農民出身の朱元璋は、反乱のなかで頭角を現し、儒学の素養をもつ知識人の協力を得て、支配を広げ、1368年、南京で皇帝の座につき、国号を明とした（洪武帝、廟号は太祖）。明軍に追われた元の帝室はモンゴル高原に退き（北元）、明は南京を都として中国を統一した。

「資料から考える」

スポットライトを当てたい地図・図版・図表のために、「資料から考える」というコーナーを用意しました。たとえば「アレクサンドロス大王の東方遠征ルート」の地図も、問いとあわせて見ると、教科書p.65の旧アカイメネス朝の領土すべてに自ら赴き、獲得しようとしていることが分かります。



写真を拡大して見てほしいもの、図の全体像を見てほしいものなどに二次元コードを設けています。ここではイッソスの戦いの全体はリンク画面で確認し、どこにアレクサンドロスが描かれているかを知ることができます。

資料から考える 東方遠征



くわしく見る イッソスの戦い

イッソスの戦いの場面に描かれたアレクサンドロス大王 イタリアのボンベイ出土のモザイク画。
 アレクサンドロス大王の東方遠征のルートを地図で確認し、その目的を考えてみよう。



充実したコラム

本書の大きな特徴は「コラム」にあります。歴史を現代世界にかかわる問題としてとらえ、歴史の理解に必要なと思われるテーマを詳しく説明しています。

本文を中心とした授業を3単位で進め、生徒が授業を振り返りながら「コラム」を読むことで、主体的な学習の態度を身につけることができます。コラムに付された問いも、考察の一助となるでしょう。

ヘレニズム

ヘレニズムという言葉は、キリスト教的伝統を表すヘブライズムに対して西洋のギリシア文化的伝統を指すために用いることもあるが、歴史学では19世紀ドイツの歴史家ドロイゼンが提唱した歴史概念に従って用いられる。この概念では、アレクサンドロスの東方遠征以降、ローマが支配権を樹立するまでの期間を世界史的に重要な時期としてヘレニズム時代と呼ぶ。またアレクサンドロスの帝国やその後継国家の広大な空間に、オリエントの文化がギリシア文化の影響を受けて独自の文化を形成したので、それをヘレニズム文化と呼んでいる。ドロイゼンは東西の民族の混雑に力点を置いている。しかし、アレクサンドロスの東方遠征やその後の支配は実際には広大な地域のごくわずかにしかおおよぼさず、支配

者のマケドニア人やギリシア人が活動した範囲も都市を中心に限定されていたから、ギリシア文化がオリエントに普及して両文化が融合したといっても、その程度は限られていた。また、早くも前3世紀の終わり頃になるとオリエントの側の要素が強まって、ギリシア文化が衰退するようになる。ドロイゼン以来、この概念にはヨーロッパ人のオリエント観がまわりついており、研究もヨーロッパの側から一方的にオリエントを観察して、彫刻などにギリシア芸術の特徴を発見するようなかたちでなされてきた。しかし、これはその時代と地域を正確に理解するには不適當であり、現在の歴史学界では、概念の歴史的品格を把握したうえで、オリエント側からの研究が進むことが期待されている。

アレクサンドロス大王の大帝国の支配は、アカイメネス朝の地域で有効であったらうか。

2. 「考える」「理解する」「追究する」教科書—各章の学習の流れ

深く追究する問いが重層的に思考力を磨く

この教科書では、世界の歴史を4つの大きな枠組みで分け、第Ⅱ部から第Ⅴ部として、その展開を紹介します。各部の扉は、その時代の展開にかかわる出来事の意味や意義、特色を多面的・多角的に考察するためのエピローグとなっています。

第Ⅱ部 諸地域の歴史的特質の形成

ローマ帝国の元史家タキトゥスは1世紀末に刊行した『アグリコラ』には、帝国の属州となつたブリタニア島の風土人情が詳しく記述されている。イタリアから遠く離れた領土でのローマ人の活動がみえてくる。

この地方の人々は、てんでに散らばって住み、粗野な生活を営んでいるために、平和に思いがけない。こうした民族は快適な生活を通じて、平和に思いがけない。あるいは個人的に威風凛々する公的に援助したりして、神祇や市場や家を建てさせた。……酋長の子弟に教育を授け、習性に着きさせた。……その結果、いまだローマ人の言葉、ラテン語を話している人々で、ローマの法律を熱心に学び始めた。この風を以てローマの属民と尊称されるようになり市民権が行使された。そして次第に帰還にそれだと思ふ人々を誘ふもの、たとえば道路、浴場、豪華な家屋を建てた。これを何も知らない原住民は、文明開化と呼んでいたが、じつは奴隷化を示す一つの特色でしかなかった。(タキトゥス『アグリコラ』)

部扉

第Ⅱ部では、人類最古の文明の誕生から始めて、古代の諸地域の発展と国家形成の過程を学ぶ。古代において、人類は実に多くのものを生み出した。人々は今日の政治や社会の基礎的な仕組みやそれに關する考え方をつくり出し、現代世界でも多数の人々の信仰を集める仏教、儒教、キリスト教なども古代に誕生した。イスラーム教もこうした古代の宗教の影響を受けて、7世紀に成立したのである。

古代が残した人類史上もっとも重要な事績の1つは、「国家」の創出である。人類は、前3千年紀以降、現代生活の始原といつてよい都市的な生活を世界各地で生み出し、そうした都市から国家が誕生した。人類最初の国家は、おおむね都市国家の形態をとつたのである。その後、ほとんどの地域では都市国家はより大きな国家へと統合されていき、さらにそれらの国家も強大な軍事力をもつ国家に組み込まれた。広大な地域を領有し人々の集団を多数支配する「帝国」の出現である。

古代に現れた帝国のうち、地中海周辺地域を中心にアルプス以北のヨーロッパ内陸部や中東地域まで支配したローマ帝国と、東アジアに統一国家を現出させた秦漢帝国とは、その広い領土を中央集権的な支配のもとにおいただけでなく、法にもとづく統治や官僚、そして宗教を背景にした支配の理念まで備えた点で特記に値し、後世にもその価値が継承された。

帝国は悲惨な戦いをもたう征服活動で多くの人々を支配に入れたが、

資料からの問い

① 資料からローマ人が生み出した文化が何をさがし出し、その性格を考えてみよう。

② ローマ帝国の支配は征服地帯にどのような影響をもたらしただろうか。属州となつた諸地域がローマ帝国衰退後どうなったか、考えてみよう。

第Ⅲ部 諸地域の交流・再編

13世紀後半、ユーラシア大陸を横断する大規模な貿易活動が展開した。モンゴルの支配が17世紀末まで続いた。この間に、ユーラシア大陸の東西にわたる貿易が盛んになった。

カンパルクの町(元の首都の大都。現在の北京)はその内外に、ほとんど同じことができる。ほとんどの家屋と人口とを擁している。……城外の街には城内より多くの人間が居住し、宿泊している。それはたとえば商人たちや旅行中の外国人であるが、その数は多く、彼らはあらゆる地方から大カアン(遊牧民の大酋長。ここでは元朝皇帝のクビライを指す)に献上するため、ないし官廷に近づくために品物を運んできたのである。……このカンパルクの町には、世界中のどの町にも増して貴重で高価な品物が到来する。しかも、そのすべての品物について膨大な量の金貨が運ばれてくるのである。……絹だけにとどまらず、毎日少なくとも1000頭の馬車がこの町に入ってきて、その車から大量の金貨の組織物などが生産される。(『モンゴル史』)

第Ⅱ部では、古代において諸地域がそれぞれどのような社会を形成し、そこでどのような文化・宗教・思想が育まれたかを考えます。扉ではローマ帝国の資料を取り上げ、ローマが生み出した文化や、帝国として広がることで他地域に及ぼした影響を読み取り、考えることができます。

第Ⅲ部では、諸地域の交流が深まるなかでどのような再編がなされたのかを考えます。扉ではマルコ・ポーロの資料をとりあげ、交易の拡大、都市の発達、文化・思想の伝播などを読み取り、考えることができます。

第Ⅳ部では、人々の国際的な移動や貿易の広がりなどにより、いかに諸地域が結合され、変容したかを考えます。扉では福沢諭吉の『西洋事情』を資料として取り上げ、近代化の理念とその背景となる歴史を読み取り、考えることができます。

章ごとの学習の流れ

章扉

各章の扉に、章の内容の導入文とともに、その章の内容を問題意識をもって読み進めていくための問いを用意しました。生徒は、その問いに基づき仮説を立てながら、「何を学ぶか」「何に注目すべきか」を知ることができます。

本文

1 古代西アジアの帝国

古代西アジアの統一

メソポタミア北部からおこった、鉄製の武器や騎馬兵を用いて前となり、前7世紀中頃までにエジプトを含む広い地域を支配した(アッシリア帝国)。王は政治・軍事・宗教にわたる強大な権力をもち、王の命令で各地に属民を移住させ、行政組織を整え、駅伝制も設けた。前612年、新バビロニアとメディアの連合軍に滅ぼされた。

2 古代ギリシア

ポリスの成立と発展

ミケーネ文明崩壊後、ギリシア人の居住地域では同時代の文字の記録がない暗黒時代と呼ばれる時期が約400年間続いた。この間にギリシアは鉄器時代に移行し、前8世紀になると、各地にポリスと呼ばれる共同体が生まれた。ポリスは、人々が丘(アクロポリス)の上に守護神をまつる神殿を建て、その麓に寄り集まって居住した。

3 ヘレニズム時代

アレクサンドロス大王の東方遠征

ポリス世界が混迷を深めている頃、ギリシア北方のマケドニア王国が台頭し、国王フィリップ2世は軍事力を強化して、勢力を拡大した。マケドニアの進出に対するギリシア内での対応はまちまちで、また傭兵に頼って国防意識の薄れた市民たちはみずからマケドニアに対抗する行動に出なかった。前338年、マケドニア軍がギリシアに侵攻しようやくアテネはテーバイなどのポリスと連合し、マケドニア軍に戦いを挑んだが、カイロネアの戦いで敗れた。翌年、フィリップ2世はギリシア諸ポリスとコリント同盟(ヘラス同盟)を結成した。これにより、ギリシアの諸ポリスは自由と自治を維持したが、

章末

章末の問い

① アテネで、直接民主政が発展した経緯についてまとめてみよう。

② ペルシア戦争後、ギリシアのポリス社会は大きく変化していった。その理由は何だろう。

③ ギリシア文化が後世に与えた影響でもっとも重要な要素は何だろう。

4 西アジアの帝国と古代ギリシア

多くの民族が興亡した西アジアでは、周辺民族を服従させる帝国が出現した。しかし、帝国の統治には、絶対的な王の権力や強力な軍事力だけではなく、様々な工夫が必要であった。アカイメネス朝は整備された組織、交通路などによりインダス川からエーゲ海におよぶ史上例のない巨大帝国を出現させた。一方、エーゲ海周辺ではギリシア人の移動と定着の結果、ポリスと呼ばれる都市国家が形成された。また、ギリシア人は植民活動や交易を通じて地中海周辺諸地域と交流し、高度な文化を発展させた。ペロポネソス戦争以降ポリス社会が変質するなかで、アレクサンドロス大王により空前の大帝国が建設され、ギリシアの文化と西アジアの文化が融合し、新しい文化が生み出された。

本文では、各所に着眼点となる問いを示しています。「相違点を整理してみよう」「原因は何だろう」など、考察の方向性も指し、思考を促す問いとなっています。

章の最後に「探究」の問いを用意しました。「まとめてみよう」「理由を考えよう」といった問いでは、生徒が主体的に学習に取り組むことができますし、「後世に与えた影響は何だろう」といった問いでは、生徒が現代社会に結びつけて考察することができます。

改訂のポイント

歴史総合

現代の歴史総合

わたしたちの歴史

日本史探究

世界史探究

指導書関連

その他の教材

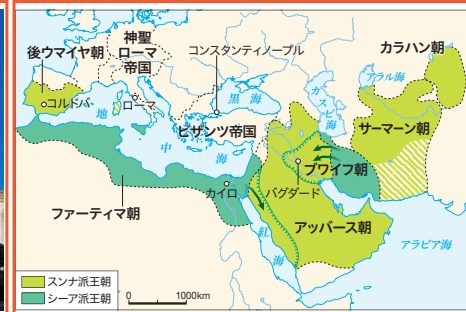
3. 図版・地図・史資料を読み解く力がつく教科書

豊富な図版

480点ほどの写真、170点ほどの地図・図表を付し、「資料から考える」のコーナーを設けることで、歴史を視覚的に理解できるよう留意しました。



アズハル＝モスク エジプトを征服したファティマ朝は新都カイロを造営し、その中心にアズハル＝モスクを建てた。972年に併設されたマドラサ(学院)はイスラーム最古の高等教育機関で、現在ではスンナ派教学の最高峰である。



10世紀のイスラーム世界

段が限られていた当時、ウマイヤ朝やアッバース朝の領域は、一人の君主が統治するには広すぎた。また地方政権が誕生した地域は、もともと地理的・文化的にひとまとまりの単位であったので、分権化が進むのは自然な流れであった。アッバース朝の時代になると、その領域全体で、アラビア語が行政のための言語として使用されるようになり、人々が日常的に使う言語も徐々にアラビア語に変わっていった。現在、アラビア語を話す人々が西アジアから北アフリカに広く分布しているのはその結果である。一方、サーマーン朝の領域である中央アジアやイラン高原東部では、9世紀末頃から住民の日常語であるペルシア語が、行政の言語としても用いられはじめた。各地でアラビア語の重要性が増す一方で、このように、一部の地方では言語の面でも自立がみられるようになった。

地方政権の1つとしてカスピ海南岸に成立した**ブワイフ朝**は、シーア派の政権であり、アッバース朝カリフの命に従わなかった。ブワイフ朝の君主は946年にバグダードを攻略したが、カリフを廃さず、その権威を利用して大アミール(大將軍)となり、政治・軍事の実権を握った。

ブワイフ朝と同じ頃にチェンニアにおこったシーア派の**ファティマ朝**は、969年にエジプトを征服し、新都カイロを建設した。この王朝の君主は、シーア派の最高指導者を自認し、カリフを名乗って、アッバース朝の権威に挑戦した。

このように、10世紀から11世紀にかけては、イラン高原から北アフリカにかけての地域で、



102 第6章 ヨーロッパの形成とイスラーム教の誕生

カラーユニバーサルデザイン

地図・グラフの作成においては、カラーユニバーサルデザインに則り、色覚特性のある生徒にも読みやすい配色や線種を使用しました。

コルドバのモスク コルドバのモスク(メスキータとよばれる)はイスラーム教のモスクであったが、現在はキリスト教の大聖堂になっている。柱は他の建物からもってきたため寸法が合わず、天井との隙間をうめる工夫として、独特の二重アーチが採用された。

文字資料

文字資料は20ほど用意しています。それぞれに問いを付し、読み解く視点を示すことで、資料を読み解く技能が習熟するよう工夫しました。

資料から考える

Q▶ 資料①のなかみられる「ワクフ」とはどのような制度のことだろうか。

Q▶ 資料②について、タージ＝マハルの維持においてワクフはどのように運用されているか。

①イブン＝バットゥータ『大旅行記』(1326年)

ダマスカスにおけるワクフは、その種類において、またその支出額においても算定出来ないほどの数である。[例えば]その1つに、メッカ巡礼に行けない人たちのために[特別に設定された]、幾つものワクフがある。これは、彼らのなかの巡礼に行こうとする者に対して、十分な[旅行]費用をワクフから提供するものである。また娘たちの結婚準備のために用意されたワクフがある。これは、娘たちに十分な準備をしてやれない彼らの家族のために提供されるワクフである。さらに捕虜となった者を保釈するためのワクフや、旅人たちに食べ物、衣類や彼らの国へ[戻るため]の旅の必需品を提供するワクフがある。道路を整備・舗装するためのワクフもあるが、これは、ダマスカスの路地道はすべてその両側に、歩行者たちが通る舗装部分があるためである。一方、駄駄に乗った人たちは、その中間の道を通る。さらに、それら以外にも慈善事業を目的とし[て設定され]た幾つものワクフがある。

(イブン・ジュザイイ編、家島彦一訳注『大旅行記1』より、一部改変)

②イナヤト＝ハーン『シャージャハーン＝ナーマ』(1658年)

燦然たる墓廟(タージ＝マハル)が[完成に要した]12年のあいだに、その費用として500万ルピーを費やしたことは紛れもないことである。また墓廟の周辺には数々の広場や宿泊所、商店が設けられ、宿泊所の背後に多くの食品製造工房も設立された。…かくしてこの燦然たる墓廟に設けられたワクフ制度によって、もし修繕が必要な場合にはこの寄進財産の収益をもってその支出に充当し、残余は[墓廟関係の]年俸受給者および月俸受給者に支給されるとともに、墓廟に仕える人々やその他困窮者たちのための必要な支出に充てられる。剰余が生ずれば、この墓廟の豊かな財庫に繰り入れられる。

(歴史学研究会編『世界史資料2』、一部改変)

シーア派の政権があいついで成立した。しかしア派に改宗することはほとんどなく、ムスリムに属していた。

イベリア半島の後ウマイヤ朝は、ファティマ朝の1つとしてカスピ海南岸に成立したブワイフ朝は、シーア派の政権であり、アッバース朝カリフの命に従わなかった。ブワイフ朝の君主は946年にバグダードを攻略したが、カリフを廃さず、その権威を利用して大アミール(大將軍)となり、政治・軍事の実権を握った。

章末の問い

- ローマ帝国が支配していた地中海世界は、8世紀にわたっていった。その経緯を整理しつつ、それぞれの文明を考えてみよう。
- カール大帝の皇帝戴冠は、中世ヨーロッパ世界形成をみてみよう。
- ムスリムの政権のもとで、アラブ人以外の被征服者が、整理してみよう。
- カリフの地位と役割は、時代とともにどのように変化したか。

二次元コードの活用

探究活動のために読み解くべき図版、参考動画を中心に、二次元コードを活用した資料を30個設けました。教科書の写真を拡大したり、他の場面を見たりすることができます。

資料から考える「清明上河図」と宋代の庶民生活

「清明上河図」北宋の都開封の繁栄を描いたとされる絵巻物。張氏制作。図は城内の商店街で、買物客・行客客であふれている。(呉子玉模本)

宋代の中国と運河

Q▶ どのような人々や動物がいて、どのような店が立ち並んでいるだろう。

Q▶ 「東京夢華録」は南宋の人、孟元老が、北宋の開封の様子を記した回想録である。宋代の開封と唐代の長安での庶民生活の違いをあげてみよう。

孟元老『東京夢華録』(街路にはそれぞれ茶店や居酒屋、芝居小屋や飲食店がある。市中の商人の家では、食事ごとにそういう飲食店から料理を取って間に合わせ、家には惣菜を用意しない者が多い。…繁華な場所になると、朝まで店を閉めない。普通の場末の辺鄙なところでも、午前0時頃になると、茶販を下げたお茶売りが出てくる。というのは、都の人は公私の仕事が忙しくて、夜更けてやっと帰宅するからである。(人矢義典・梅原都子訳『東京夢華録』)

料や薬品類が中国へ輸出された。広州・泉州・明州(寧波)などの港には市舶司がおかれ、積荷検査や課税など海上貿易を管理した。

教師用指導書 授業実践編

授業のねらいや学習の目標など、指導の指針となる情報が盛り込まれています。

詳説世界史 教師用指導書 授業実践編 付属データ集DVD-ROM付

仕様：B5判・2色刷・432ページ

定価：22,000円(税込)

内容：①章の目標 ②授業の進め方と指導上の留意点 ③板書例 ④導入 ⑤問いの解答例 ⑥解説
⑦教科書画像 など

高校世界史 教師用指導書 授業実践編 付属データ集DVD-ROM付

仕様：B5判・2色刷・320ページ

定価：22,000円(税込)

内容：①指導上の留意点 ②問いの解答例 ③解説 ④「探究しよう」の解説 ⑤問いの解答例 ⑥教科書画像 など

新世界史 教師用指導書 授業実践編 付属データ集DVD-ROM付

仕様：B5判・2色刷・480ページ

定価：22,000円(税込)

内容：①授業のポイント ②教科書の整理 ③問いの解答例 ④視点 ⑤用語の解説 ⑥図版の解説 など

[詳説世界史]



教師用指導書 授業実践編 付属データ集

授業準備や作問などに便利なデジタルコンテンツが豊富に収録されています。指導書とともにDVDで納品しますが、クラウドからの配信もご用意しています。

[付属データ集DVD-ROM 収録コンテンツ一覧]

教科書データ	①教科書紙面	PDF	教科書全ページの紙面データ
	②教科書本文・注・史料テキスト	Word	本文・注・史料のテキストデータ
	③教科書掲載地図・図表	JPEG	カラー・モノクロ2種の画像データ
	④教科書掲載問い・解答例一覧	Excel	問いと解答例の一覧
	⑤指導書紙面	PDF	指導書全ページの紙面データ
	⑥板書例テキスト	Word	板書例のテキストデータ
	⑦年間指導計画・評価規準例	Excel	カリキュラムにあわせて加工が可能
教科書準拠教材	⑧授業用スライド	PowerPoint	教科書の節ごとに構成 問いの解答例も収録
	⑨授業用スライド対応ワークシート	Word	スライドに対応したワークシート
	⑩準拠テスト例	Word	小問ごとに観点別評価を明記 テストに対応したループリック(評価規準表)例付き
	⑪準拠ノート	PDF Word	『詳説世界史授業用整理ノート』の紙面データ
	⑫白地図集	JPEG	プリント用・黒板用2種の画像データ

世界史探究共通

教師用指導書 研究編

B5判・1色刷・504ページ 定価：5,500円(税込)

山川出版社の世界史探究教科書で共通してご使用いただけます。大きいテーマを扱う「基本考察」、各用語ごとの「用語解説」「エピソード」「参考文献」を『詳説世界史』の配列に沿って記しています。



第6章 イスラム教の伝播と西アジアの動向

<詳世p.111 新世p.108 高世p.97>

2 西アジアの動向

マムルーク 「マムルーク mamlūk」とはアラビア語で「所有されたもの」つまり「奴隷」一般を意味する言葉だが、アッバース朝以降、トルコやチェルケスなど白人系の奴隷身分出身の軍人を指す言葉として定着した。とくにマムルーク朝では、支配階級の奴隷軍人に対する呼称となった。トルコ系

その一方で、アイユーブ朝のようにスンナ派の王朝でありながらスルタンではなくマリクを称した王朝、イル＝ハノ国のようにカリフと関係を持たないのにスルタンを称した王朝など様々な事例があり、それぞれの王朝によりスルタンという称号が持つ意味合いは異なった。

バスエールカリアのムスティアス(在位333～342)である。そこで軍として活躍した者の中には、奴隷身分から解放される者や軍の司令官や地方総督に抜擢される者もあらわれた。以後マムルークは軍事の主力となり、ブフィフ朝やセルジューク朝などの軍陣の主人は常にマムルークがいた。マムルーク朝がそうと呼ばれるのは、アイユーブ朝時代に編制されたマムルークによって樹立された王朝であるためである。

セルジューク朝(Seljūq 1038～1194) 中央アジア出身のトルコ系のセルジューク家による、イラン・イラクを中心に西アジアから中央アジアにかけての広い地域を支配したスンナ派王朝。10世紀後半にイスラム教に改宗したセルジューク家は10世紀後半に勢力を伸ばし、11世紀末、知袋連の形をとり、中庭に面したアーワーンと呼ばれる空間で講義が行われる。図書館、厨房、宿舎も付設され、教授には給与が、学生には衣食住が提供された。ただし、モスクがマドラサとして使われ、逆にマドラサが礼拝所としての機能を果たすこととなり、他の宗教施設との区別がなくなり、知袋連

改訂のポイント

歴史総合

現代の歴史総合

わたしたちの歴史

日本史探究

世界史探究

指導書関連

その他の教材